

平成30年

新年のごあいさつ

謹賀新年



市長
森山 一正

明けましておめでとうございます。
さて、いよいよ平成の時代

も30年目を迎えることとなりました。振り返りますと、この30年の間に地方分権が現実のものとなり、地域の実情に即した適切で柔軟な施策を地方自治体が主体となって展開し得るといふ、大きな変化が

ありました。

一方、摂津市においては危機的な財政状況が心配されたこともありましたが、前市長から引き続いて行財政改革を断行したことが功を奏し、加えて都市基盤整備の成功等という幸運にも恵まれ、財政状況は大きく改善いたしました。現在、安全安心を実感していただけの摂津市がありません。市議会をはじめ市民の皆様のご理解ご協力、そして何より「摂津市を良いまちにしよう」という一人ひとりの熱意のおかげです。

しかしながら、我が国が抱える人口減少問題は深刻さを増しており、決して楽観視するわけにはまいりません。本市では将来人口ビジョンとして合計特殊出生率を1.8と掲げ、総合戦略を策定したところですが、これを実現するべく、今後も「利便性」「安全・安心と健康」「子育て支援」「産業振興」の4つの柱に取り組み、市民の皆様には一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。年頭のごあいさついたします。



市議会議長
藤浦 雅彦

明けましておめでとうございます。
日頃より市議会に対し、温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年、厚生労働省から日本人の平均寿命が男性80・98歳、女性87・14歳で過去最高となったと公表されましたが、市民の皆様が住み慣

れたまちで、健康で充実した日々をいつまでも安心して過ごせることが、何よりも大事であると考えております。

今、国立循環器病研究センターの移転に伴う、先進的な予防医療のまちづくりが、平成31年度完成に向け着実に進められており、本市でも団塊の世代が75歳以上となる2025年問題も見据え、健康・医療・福祉の総合力を発揮できる一体的施策の展開に向けた議論を重ねているところであります。このような中、本市議会は、昨年9月に任期満了に伴う議

員改選を迎え、定数19人で新たなスタートを切りました。今後、常に市民の皆様と同じ目線で、健康長寿と子育て支援、そして安全・安心で活力あふれる誰もが住みたく、住み続けたいと思う摂津のまちづくりでの議決機関として役割と責任を果たしてまいりますので、一層のご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、幸多き飛躍の年となりますことを心から祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。